

令和８年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。
（「夢に向かってチャレンジできる学校」、「生徒一人ひとりを大切に作る学校」、「あたたかい学校」、「面倒みのいい学校」をめざす）

1 自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。
2 人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。
3 自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。
4 特別枠入試（「日本語指導が必要な生徒選抜」）の実施校として、より一層多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
- （１）生徒に「学ぶことの意味」を丁寧に伝え「学ぶ意欲」を喚起する。また、基礎・基本の定着とともに自らの考えを的確に伝え、相手の意見を傾聴できるコミュニケーション力を育成する。
- ア 生徒の進路希望、興味・関心等に応じて教育課程を検証のうえ編成・実施するとともに、学習指導要領を踏まえた指導方法及び評価について工夫・改善に取り組む。
- イ 生徒一人ひとりに応じた個別最適な学びを提供するとともに、１人１台端末の活用と学習支援クラウドサービスの定着を図る。
- ウ 多様な価値観を育む一環として国際理解教育等を推進するとともに、論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する。
- エ 基礎・基本の定着のための授業規律の確立、予習・復習及び家庭学習の指導とともに、発展的な学習指導にも取り組む。
- オ 英語の四技能の向上のため、積極的に英語を使う学校づくりとともに、各種検定試験の受検を推進する。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」の肯定的回答率を毎年１％以上引き上げ、令和１０年度に８７％をめざす。（Ｒ５：８５％ Ｒ６：８４％ Ｒ７：８４.２％）
（以下「生徒向け学校教育自己診断」は「生徒診断」と表記、％は「肯定的回答率」を示す）
- ※ 生徒診断「授業で発表する機会がある」について、令和１０年度に９０％以上をめざす。（Ｒ５：８６％ Ｒ６：８９％ Ｒ７：８７.５％）
- 2 キャリア発達の支援
- （１）生徒が望ましいキャリアの展望を持つために、以下の取組みを推進する。
- ア 主体的に将来や社会について考え、進路実現を図る生徒を育成するため、校内外で連携し３年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する
- イ 主体的に学習に取り組む生徒を育成するため、組織的な取組みを推進する。その際、教育産業等の活用を図る。適切な進路選択のため、１年次から系・コース選択の説明会などを通じて生徒が考える機会やそのための課題を設ける。特に看護医療コース・幼児教育コースについては専門機関等との連携を多く取り入れ、進学後の姿をイメージさせながら指導を行う。
- ウ 学習の基盤となる資質・能力を育成するため、「総合的な探究の時間」のカリキュラムの整備とともに、組織的な指導体制を確立する。
- ※ 生徒診断「進路指導関係４項目」（ガイダンス等・必要な科目選択・知りたい情報・進路や生き方について考える機会）について、令和１０年度に９０％以上をめざす。（Ｒ５：８８％ Ｒ６：８８％ Ｒ７：８８.０％）
- ※ 四年制大学進学希望実現率 90％以上を維持する（Ｒ５：98％ Ｒ６：92％ Ｒ７：98.7％）とともに、学校斡旋就職の 100％を維持する（Ｒ５：100％ Ｒ６：100％ Ｒ７：100％）
- 3 生徒の自己効力感と人権意識の向上（「自主自立」や「文武両道」の精神を育成）と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり
- （１）生徒の自己効力感の育成のために以下の取組みを推進する。
- ア 校内で連携して、生徒が学級活動、学年・学校行事、部活動、ボランティア活動等に１年次から主体的に取り組むことを支援し、協調性や向上心、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。
- イ 「あいさつ」「服装・頭髮」「時間管理」等生活習慣の確立とともに、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。その際、保護者との連携を推進する。
- ※ 生徒診断「行事満足度」について、令和１０年度 90％以上を維持する。（Ｒ５：88％ Ｒ６：88％ Ｒ７：91.6％）
- （２）生徒の人権尊重意識の向上を支援し、違いを認め互いの立場や思いを尊重する心、状況に応じた言動ができる力を育成する。
- （３）誰もが安心して学ぶことができるよう健康安全教育、防災教育等を組織的・計画的に実施する（いじめ等の防止、薬物乱用の防止、組織的な各種訓練）。
- 4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力の向上
- （１）自主的・主体的に物事に取り組む生徒の力を育成するため、以下の取組みを推進する。
- ア 学校教育目標の共有とともに、卒業までの３年間を見通した組織的・系統的教育活動を推進する。
- イ 将来構想委員会・分掌・学年・教科・委員会等で連携するとともに、取組みを分析・評価し、改善につなげる。
- （２）下記の学校全体の課題に重点的に取り組む。
- ア 「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生徒（＝渡日生）への指導体制の確立及び、国際理解・国際交流の取組みを充実する。
- イ 関係諸機関と連携しながら、全教職員の人権意識の向上をめざす研修とともに、生徒の人権侵害事象の未然防止（SNS の適切な使用）等の指導を充実する。
- ウ 配慮を要する生徒を含めた生徒の共通理解とともに、保護者や専門家（SC や SSW ・医療機関・外部機関等）・関係諸機関等と連携して組織的な教育相談及び支援教育を充実する。
- エ 学校教育活動に関する情報を積極的に校内外へ発信する。その際、ICT 機器活用等、校内での情報収集や発信の工夫・改善を推進する。
- （３）教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり
- ア 教員が学び続ける学校文化を育むため、授業力向上を支える仕組みと条件を整える。
- （４）良好な教育環境の確保に努め、施設、設備の計画的な改善に取り組む。
- （５）大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。
- ア 校務運営について業務の見直しや ICT を用いて効率化を図る。
- イ 部活動方針の遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 8 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「学ぶ意味」を伝えることによる「学ぶ意欲」の喚起 基礎・基本の定着、自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力の育成	(1) ア・進路希望等に応じて教育課程を検証のうえ、編成、実施する。 ・学習指導要領を踏まえた指導と評価の工夫・改善とともに、情報共有を推進する。 ・分掌・学年・教科が連携して、組織的・計画的に講習・補習等の指導を実施する。 イ・アンケート結果等を踏まえた効果的な習熟度別少人数授業を実施する。 ・1人1台端末及び学習支援クラウドサービス等の活用を定着させる。 ウ・国際理解教育等を推進する。 ・論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する。 エ・授業において、目標明示とふり返りの実施とともに、授業規律の確立、予習・復習、家庭学習等を継続的に指導する。また、学習状況等を踏まえて授業のみなおしを図る。 ・学年と教科等が連携して、3年間を見通した継続的な学習指導を行う。 オ・検定試験等により、英語運用能力の向上を図る。 ・英語以外の検定試験の受検を推進する。	(1) ア・生徒診断「進路に必要な科目の選択」肯定率 87% [85.9%] ・教員診断「生徒がわかるように授業を工夫」肯定率 90%以上維持 [95.1%] ・教員診断「補習など適切な指導」肯定率 86% [85.4%] イ・生徒診断「教え方に工夫をしている先生」肯定率 90%以上維持 [91.7%] ・生徒診断「配付された1人1台端末は学習活動等に役立っている」肯定率 90%以上維持 [96.4%] ウ・各学年の「総合的な探究の時間」等及び各学年の取組み以外で、国際理解教育等の実施（各年1回以上） ・生徒診断「考えをまとめ発表する機会」肯定率 88% [87.5%] エ・生徒診断「授業に満足」肯定率 85%以上 [84.2%] 生徒診断「授業はわかりやすい」肯定率 84.5% [84.1%] ・教員診断「指導計画等について話し合う」肯定率 78.5% [78.0%] オ・英語資格検定受験 100人以上維持 [128人] ・日本語ワープロ検定試験等の検定1つ以上の実施 [新規]	
2 キャリア発達の支援	(1) 生徒が望ましいキャリアの展望を持つための取組み	(1) ア・生徒が計画的に学習等に取り組む姿勢を育成するため、3年間を見通した指導計画を作成する。 イ・専門機関等と連携して生徒の進路意識を高める説明会や体験の機会を設定する。 ・「総合的な探究の時間」等において発表する機会を設定する。 ウ・進路指導部と学年・教科が連携して、教育産業データ等を活用しながら、組織的・計画的な進路指導を実施する。	(1) ア・生徒診断「進路指導関係4項目」肯定率 88.5% [88.0%] イ・各学年で説明会や体験等の機会（年2回以上） ・各学年の「総合的な探究の時間」等で発表の機会（年1回以上） ウ・教員診断「教職員全体で進路指導に取り組む体制」肯定率 76% [75.6%] 四年制大学の希望実現 90%以上 [98.7%] 学校斡旋就職 100%維持 [100%]	
3 生徒の自己効力感と人権意識の向上と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり	(1) 生徒の自己効力感の育成のための取組み推進 (2) 違いを認め互いの立場や思いを尊重する心、言動ができる力の育成 (3) 健康安全教育、防災教育等の実施	(1) ア・1年次から学校行事等に主体的に参加し、協調性等を育むよう組織的な支援を行う。 ・部活動参加促進のため、入学時の部活動紹介、試合予定の周知等を実施する。 ・生徒会や部活動等において、ボランティア活動や地域貢献活動等への参加を促進する イ・体育祭（応援団）、文化祭指導等において生徒の取組みに教員が組織的に関わる。 ウ・あいさつ運動等、生徒を育成する取組みを教員が支援する。 ・服装・頭髪・遅刻指導等、生活習慣の確立と共に、公共のルールを守る生徒を育成するため、生徒実態を踏まえた指導方法を検討し、学年・分掌を中心に全教員で連携して指導を行う。 ・指導にあたり、多様な生徒に配慮しながら、教職員が方針を共有して指導を行う。また、指導方針を丁寧に説明し、生徒・保護者との協力体制を構築する。 (2) ・人権学習、学校行事等の機会や日々の教職員からの働きかけを通して、思いやりの心を育み、それを行動に表せる生徒を育成する。併せて、多様性を尊重する集団づくりを推進する。 (3) ・健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。	(1) ア・生徒診断「学校行事満足度」肯定率 90%以上維持 [91.6%] ・生徒診断「部活動満足度」肯定率 71% [69.7%] 入学時の部活動紹介等の実施 ・多文化部他でボランティア活動や地域貢献活動等に複数回参加 イ・生徒診断「文化祭・体育祭が楽しく行える」肯定率 90%以上維持 [93.0%] ウ・全教員による登校指導期間（学期1回） ・教員診断「協力して生徒指導」肯定率 62% [61.0%] ・生徒診断「学校生活についての指導に納得」肯定率 88% [87.2%] 保護者診断「生徒指導方針に共感」肯定率 82.5% [82.0%] (2) ・生徒診断「学校で人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」肯定率 90%以上維持 [90.8%] (3) ・いじめ対策委員会（学期1回） 薬物乱用防止教室（年1回） 防災避難訓練（年1回）	

4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力の向上	(1) 自主的・主体的に取り組む生徒の育成	(1) ア・年度当初に学校経営計画とともに、分掌・学年等の目標を教職員で共有する。 イ・2学期末をめどに分掌・学年等でふり返りを行う。年度末には学校全体で分析・評価のうえ、引継ぎを行う。	(1) ア・教員診断「教育活動について話し合い」肯定率 89% [87.8%] 将来構想委員会の定期開催と校内への情報発信 20 回以上維持/年 [24 回/年] イ・教員診断「分掌・学年等の連携が円滑」肯定率 67% [65.9%] 教員診断「評価を次年度の計画に活かす」肯定率 60% [58.5%]
	(2) 学校重点課題	(2) ア・渡日生の受入れについて、学校全体で組織に取り組むとともに、学外への周知を図る。 ・さまざまな機会を活用して、国際交流を推進する。 イ・人権研修の充実等により、教職員の人権意識と行動力を高める。 ・SNS の適切な使用について学年で生徒向け学習会等を実施する。 ウ・高校生活支援カードや教育相談委員会等を活用して、配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有し、必要に応じた支援を行う。 ・教職員研修や SC・SSW からの情報提供等により、教職員が生徒を把握する力とともに相談等に対応できる力を身に付ける。 ・学年と教育相談委員会等で協力し、保護者や関係諸機関（SC、SSW、各機関等）と組織的・継続的な連携を推進する。 エ・学校ホームページ等を活用し、本校の特長について広く情報発信する。	(2) ア・学内外の説明会への参加（6 回以上）[11 回] ・渡日生の情報共有のための学習会等（年 3 回）[3 回] イ・教員診断「人権尊重に関して話し合い」肯定率 72% [70.7%] ・生徒診断「SNS を適切に使用」肯定率 95% 以上維持 [96.1%] 保護診断「子どもは SNS を適切に使用」肯定率 89%以上 [87.4%] ウ・生徒診断「悩みや相談に応じる先生」肯定率 90%以上維持 [90.9%] ・教員診断「教育相談体制が整備され、担任以外の教職員とも相談できる」肯定率 89% [87.8%]
	(3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり	(3) ア・授業改善に係る取組みを継続的に進めるための組織を検討すると共に、教員同士の授業見学、授業研究等の具体的な取組みを計画・実施する。	(3) ・授業力向上のための授業見学会・研修会を 1・2 学期に 2 回実施 [新規] 教員診断「授業を見学するなど、授業力の向上」肯定率 74% [73.2%]
	(4) 施設、設備の計画的な改善	(4) ・生徒の自主的な清掃活動について、学校全体で取り組むとともに、生徒の環境整備についての意識を高める。 ・施設・設備の計画的な改善に努める。	(4) ・生徒中心の学校内外の清掃活動（学期 1 回以上） 生徒診断「教室や廊下等の清掃が行き届いている」肯定率 76% [75.2%] ・生徒診断「施設や設備等をすぐに修理等」肯定率 85% [84.2%] 教員診断「教室や廊下等の清掃をはじめ教育環境を整備」肯定率 67% [65.9%]
	(5) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する	(5) ア・ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 ・業務分担の実態把握をしたうえで、見直しを推進する。 イ・ICT の活用や部活動方針の遵守等により、時間外勤務時間の削減を推進することにより、教職員の健康とワークライフバランスを守り、教材研究や生徒と向き合う時間の確保に努める。	(5) ア・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする ・分掌・委員会の業務を精選し、必要な業務分担の見直し及び再編を行う イ・時間外勤務に関する教職員対象アンケートにて「部活動が時間外勤務の主な原因」70%以下 [71.5%]